

キリスト教教育関連の資料より（澤田美喜記念館）

1. 南蛮聖水盆（写真番号 No.8）



17 世紀、文禄慶長の役で投降した朝鮮人陶工によって作られたとされる、口径 20 センチ高さ 10 センチの大型の陶器である。

特徴は、正面に十字紋で両脇に俵手(たわらて)という米俵を表す文様がほどこされている。正式には、十字紋象嵌俵型鉢(じゅうじもんぞうがんとわらがたはち)といい、キリシタン礼拝時の聖水盤か聖水器として使用されたと伝承されている。

（神戸市立博物館、熊谷美術館にも所蔵）



2. 水差し（写真番号 No.15） 中川久留子紋



木製漆塗りで、高さ幅ともに約 20 センチの大型の水差し。当時の使われ方を考えると、礼拝用品としてではなく、むしろ接客時などの日常の利用と考えたほうが妥当と思われる。本体の左右および蓋には中川久留子紋、本体の正面には抱き柏紋が金色にほどこされている。高山右近の従兄弟、中川清秀が率いる中川家の二つの家紋が見事に描かれている逸品。



3. キリシタン貴重書（写真番号 No.38～）

（ヴァリニャーノ書簡、東方伝道史など）



記念館は、16 世紀末から 17 世紀初頭にかけての貴重な 4 点の古書を収蔵。

どれも貴重なキリシタン関連の書物と言うだけでなく、日本人以外の視点から、戦国時代の終わりから徳川の時代に至る当時の歴史の証言も数多く含まれている。

以下、出版順に並べてみた。

No.42 枢機卿会広報 (1585 年 ラテン語)

*ACTA CONSISTORII PUBLICAE EXHIBITI
A.S.D.N.GREGORIO PAPA XIIII*

イエズス会東インド管区巡察使ヴァリニャーノの発案による4人の少年による教皇使節（天正遣欧使節）などに関する文献。大友宗麟の教皇宛書簡も掲載。

No.40/No.41 東方伝道史 第1巻/第2巻

(1601 年 スペイン語 初版本)

*HISTORIA DE LAS MISSIONES QUE HAN HECHO LOS
RELIGIOSOS DE LA COMPAÑIA DE JESUS, PARA PREDICAR
EL EVANGELIO* Guzman, Luis de. 著

日本教会史の礎を築いた名作。イエズス会の著作家としてザビエル以降の莫大な宣教師書簡などの資料群を網羅的に精査しまとめ上げた。

No.39 ヴァリニャーノ書簡

(1603 年 イタリア語 初版本)

*LETTERA DEL P. ALESSANDRO VALIGNANO. VISTATORE
DELLA* Valignano, Alessandro. 著

イエズス会士の視点から関ヶ原の戦いに至る経緯とその過程を記述した第一級の重要資料。

No.38 日本キリスト教諸事報告

(1617 年 スペイン語 初版本)

*RELACION DEL SUCESSO QUE TUVO NUESTRA SANTA FE
EN LOS REYNOS DEL*

JAPON, DESDE Pineyro, Luis 著

徳川幕府によるキリスト教迫害の本格化を伝えると共にイエズス会の日本の宣教活動の正当性を強調、「天草コレジヨ」所在地論争に終止符を打った記述でも注目された作品。

4. 板踏絵（マドンナと使徒・写真番号 No.117）



キリシタンを摘発する目的ではじめは画像を踏ませたが、すぐ破損してしまうため、没収した銅牌を板に埋め込んだ板踏絵が1630年頃から用いられるようになった。九州の諸藩からの貸し出しの要請に応じるため、寛文9年(1669)に真鍮製の踏絵が20面作られた。また、真鍮踏絵は信仰の対象でなく奉行所の注文で作られたため、キリシタンがこれを踏む苦痛は板踏絵よりは軽減されたという。

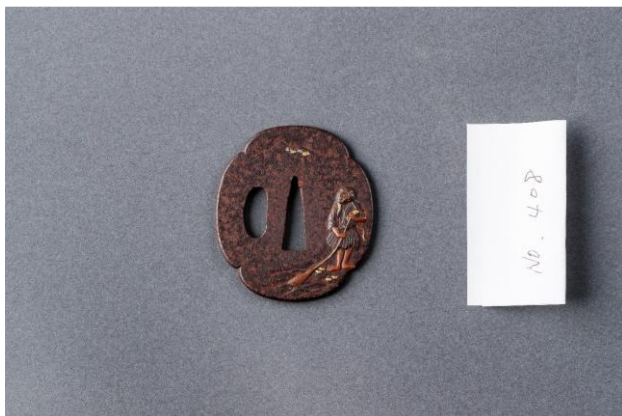
5. ご聖体の連禱と黙想の図



澤田美喜女史が長崎県生月島のある夫人から預かったと伝えられている巻物様式の信仰画。その内容は日本人へのミサのために、ラテン語をそのまま和文で綴られた礼拝式文。マリアの受胎告知からはじまる十五の場面（玄儀図）が墨絵として巧妙なタッチで描かれている。文字の書体や絵は江戸時代より古いものと評されている。

なお、2018年東京大学史料編纂所修理・保存チーム監修のもと、この和紙の放射性炭素年代測定をした結果、1556年から1633年で安土桃山時代のものであることが確定した。現存するキリシタン信仰画としては国内最古のものであろう。

6. 鰐



この鰐の表面には、シモン・ペテロの魚をとる姿が象嵌(ぞうがん)されている。

ペテロの胸には小さいがはっきりと十字架がかけられている。金、銀、銅が巧みに用いられた芸術作品ともいえる。